



2022年12月期

決算説明会資料

2023年2月15日（水）開催

株式会社ビーグリー（Beagle Inc.）

東証プライム：3981

1

2022年12月期 通期決算

2

2023年12月期 通期業績予想

3

中期経営計画（2022-2024年）抜粋

4

会社概要

本資料においては下記略称を使用しております。

Pセグ：プラットフォームセグメント Cセグ：コンテンツセグメント 日本テレビ：日本テレビ放送網株式会社

1

2022年12月期 通期決算

2

2023年12月期 通期業績予想

3

中期経営計画（2022-2024年）抜粋

4

会社概要

2022年12月期エグゼクティブサマリー

売上高

18,713 百万円

(前期比 0.4% 増)

営業利益

1,755 百万円

(前期比 30.5% 増)

ROE

11.1 %

(前期比 2.9% 増)

- **4期連続**で増収増益
- 『まんが王国』は**増収**、ゲームの赤字減少と費用対効果を重視した広告展開により**増益**
- Cセグはデジタル売上高の継続成長により**増収**も、紙の原価高騰などを受け利益は**横ばい**

(単位：百万円)

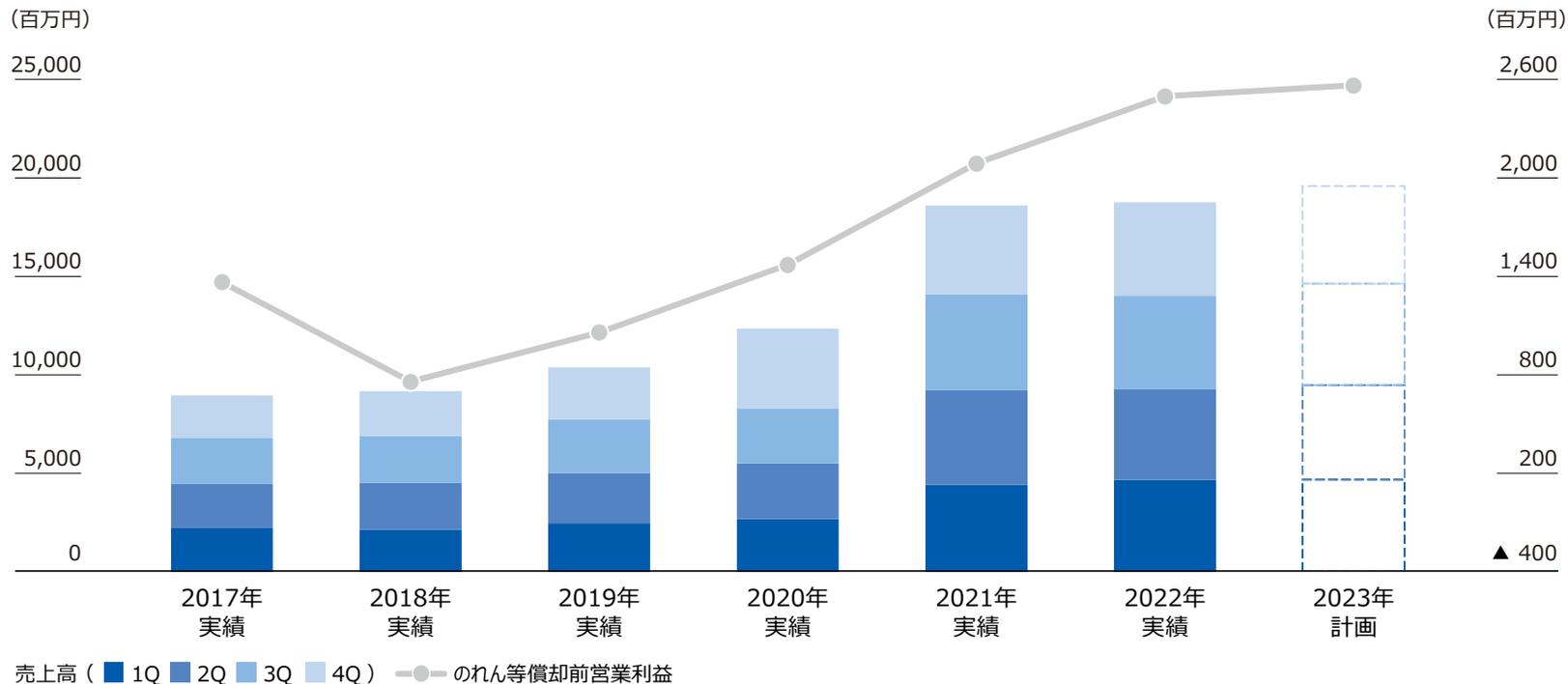
P / L	2021年12月期	2022年12月期	前期比	
	4Q 累計	4Q 累計	増減額	増減率
売上高	18,637	18,713	+75	0.4%
営業利益	1,345	1,755	+410	30.5%
のれん等償却前営業利益	2,141	2,534	+392	18.3%
経常利益	1,202	1,608	+405	33.8%
親会社株主に帰属する当期純利益	444	664	+219	49.4%
1株当たり当期純利益 (円)	74.81	111.34	+36.53	—

注：前期実績値は、2021年12月期におけるPPA確定後の修正値

注：のれん等償却前営業利益は、のれん及び著作権償却前の営業利益

注：端数処理の都合、合計値は不一致

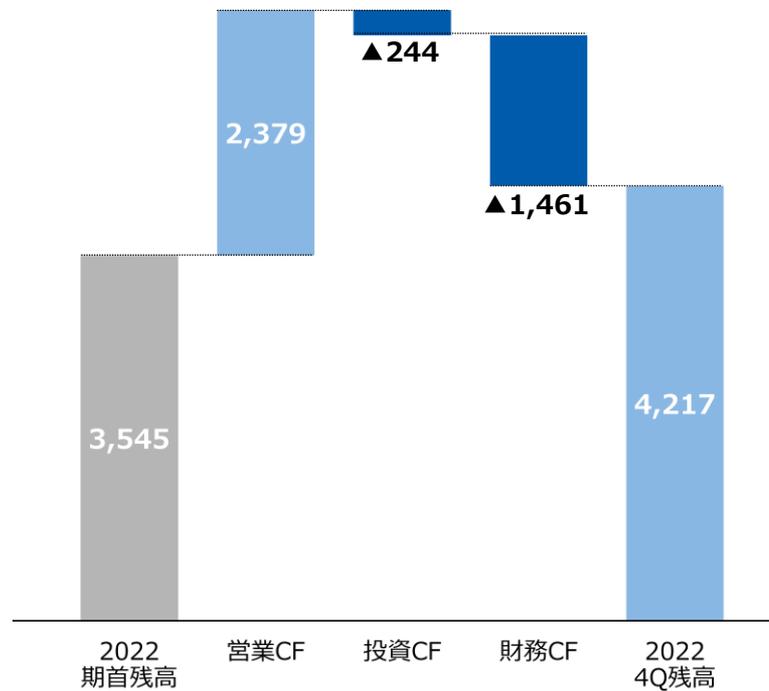
売上高・のれん等償却前営業利益



(単位：百万円)

B/S	2021年12月期末		2022年12月期末			
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	補足
流動資産	8,175	42.0%	8,807	46.3%	+631	現金及び預金の増加
固定資産	11,282	58.0%	10,232	53.7%	▲1,050	のれん 89.1億円 出版権 5.9億円
資産合計	19,458	100.0%	19,039	100.0%	▲418	
負債合計	13,786	70.9%	12,725	66.8%	▲1,061	D/E レシオ 1.45 ⇒ 1.08 に改善
純資産合計	5,671	29.1%	6,314	33.2%	+643	
負債・純資産合計	19,458	100.0%	19,039	100.0%	▲418	
自己資本比率	29.1%		33.2%			

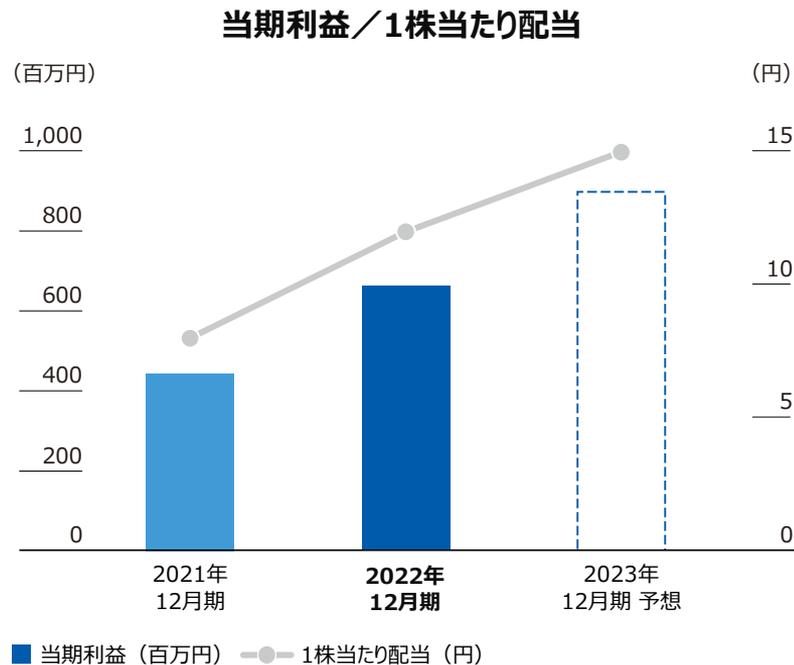
注：端数処理の都合、合計値は不一致



(単位：百万円)

	2021年 12月期	2022年 12月期	差異
営業CF	1,574	2,379	+805
投資CF	▲330	▲244	+85
財務CF	▲929	▲1,461	▲532
現金及び現金同等物の 四半期末残高	3,545	4,217	+672

2021年12月期より配当を開始



当社は、中長期的な事業拡大や事業基盤の整備を実施しつつ、内部留保の充実状況および企業を取り巻く環境を勘案した上で、株主への安定的かつ継続的な利益還元を検討していく方針であります。

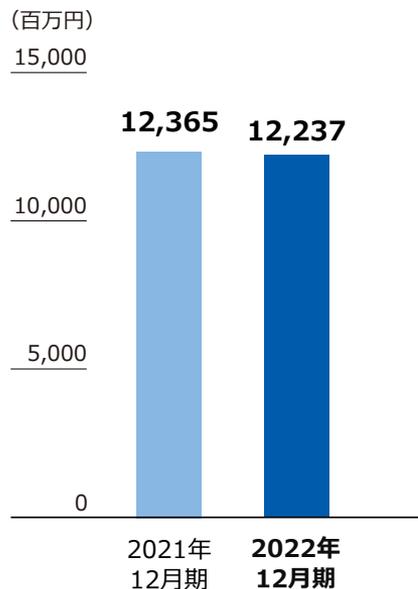
配当性向10%以上という目標を掲げ、2021年12月期より配当を開始いたしました。

(単位：百万円)

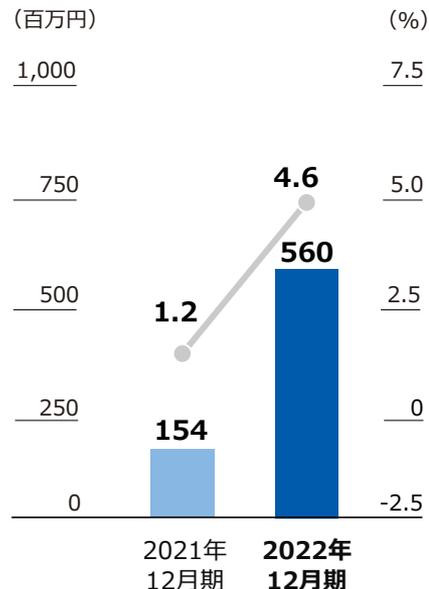
	2022年12月期 実績	2023年12月期 予想	前期比
当期利益	664	900	+235
配当	12円	15円	+3円
配当性向	10.8%	10.0%	—

プラットフォームセグメント…コミック配信サービス「まんが王国」の運営、まんが王国オリジナル作品のデジタル出版、その他周辺ビジネス

売上高



営業利益・営業利益率



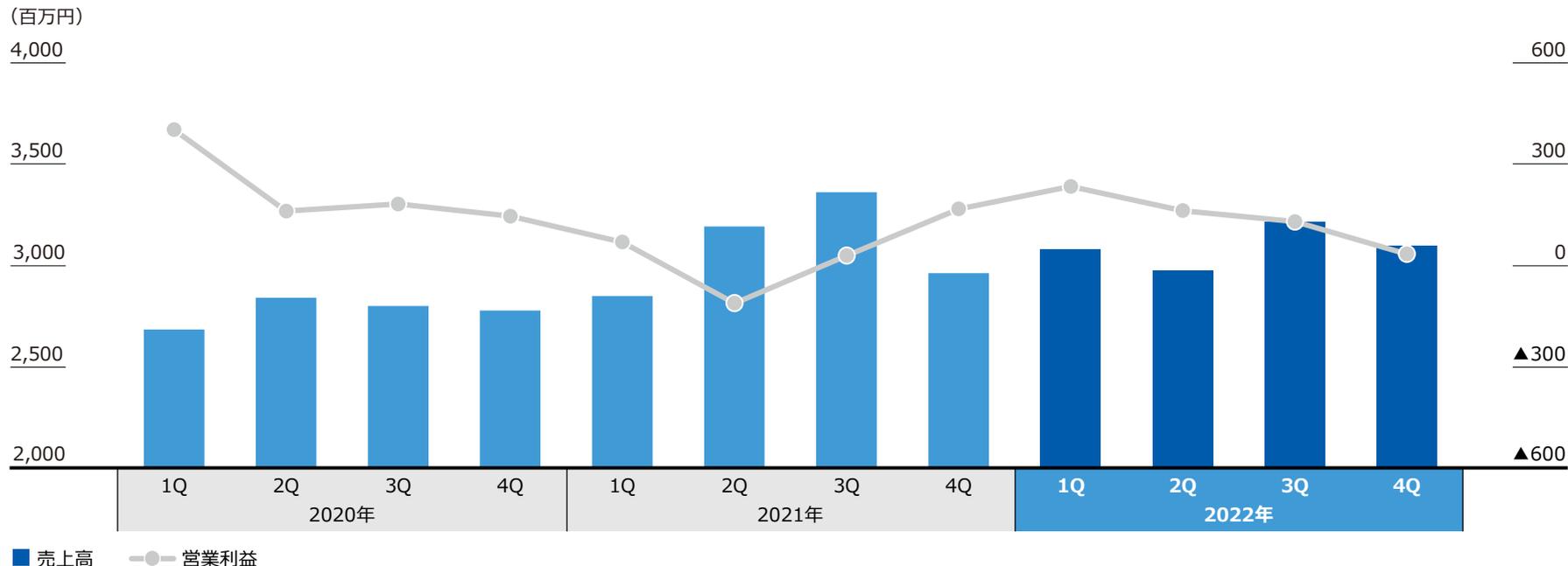
売上高

- ゲームビジネスから撤退した影響で、通期の売上高はYonYで99%と前期を下回った。
- 『まんが王国』の売上高は、YonY102%と市場全体が厳しい環境の中で、一定の成長を遂げた。
- 第4四半期の売上高はQonQ92%、YonY100%と概ね計画通りに推移。

営業利益

- ゲームビジネスの赤字幅縮小と、広告投資効果の改善により、通期の営業利益は大幅に改善した。
- 下期に入り広告市況が改善したことで、web広告の消化が伸長、期初予算を計画通りに消化した。
- 第4四半期の営業利益は、12月に一括計上した賞与引当金の影響で、QonQ・YonY共にマイナスの着地となった。
- なお、2023年12月期以降、賞与引当金は月次按分で計上。

Pセグ 売上高・営業利益



注：売上高はセグメント間の内部売上高又は振替高を含む

MAU

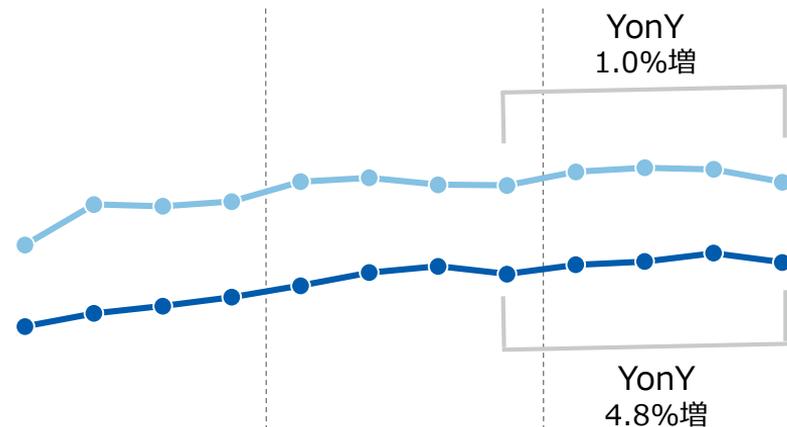


1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
2020年				2021年				2022年			

● MAU

『まんが王国』を訪れた会員数の推移

ARPPU (課金・消費)



1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
2020年				2021年				2022年			

● 課金ARPPU ● 消費ARPPU

課金額・消費額を有料会員数で割った金額の推移

1 ロイヤルカスタマーの育成を推進 オリジナルコンテンツの拡充やお得感施策のラインナップを追加



- 『まんが王国』会員数700万人突破
- オリジナル作品の「宝石の娘と異能の王子」が年間総合ランキング1位獲得のヒット



← 宝石の娘と異能の王子

村上私 (著)
万衣花 (企画)

2 投稿作品を原作としたコミカライズ推進のため、各種施策や小説コンテストを開催



- パブリッシングリング共同コンテスト開催
- 投稿作品数UPのためキャンペーンの開催やアプリ機能を拡充 (ボイスノベル機能)

3 日本テレビとのシナジー創出ほかメディアミックス展開を推進



← ドキュメントバラエティ
「THE TOKIWA」



← ぼくたちのあそびば
コミカライズ

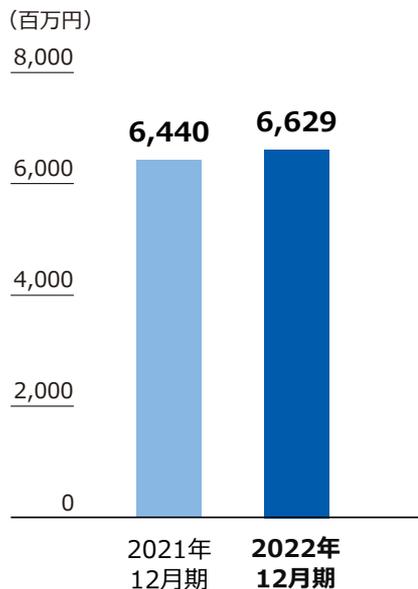
スマートフォンゲーム「無職転生」

- 2022年8月末にサービスを終了

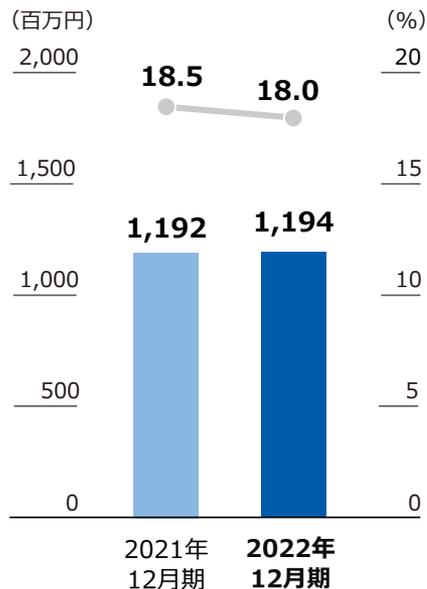


コンテンツセグメント…ぶんか社を中心とする書籍・雑誌の出版、およびそれらのデジタル出版

売上高



営業利益・営業利益率



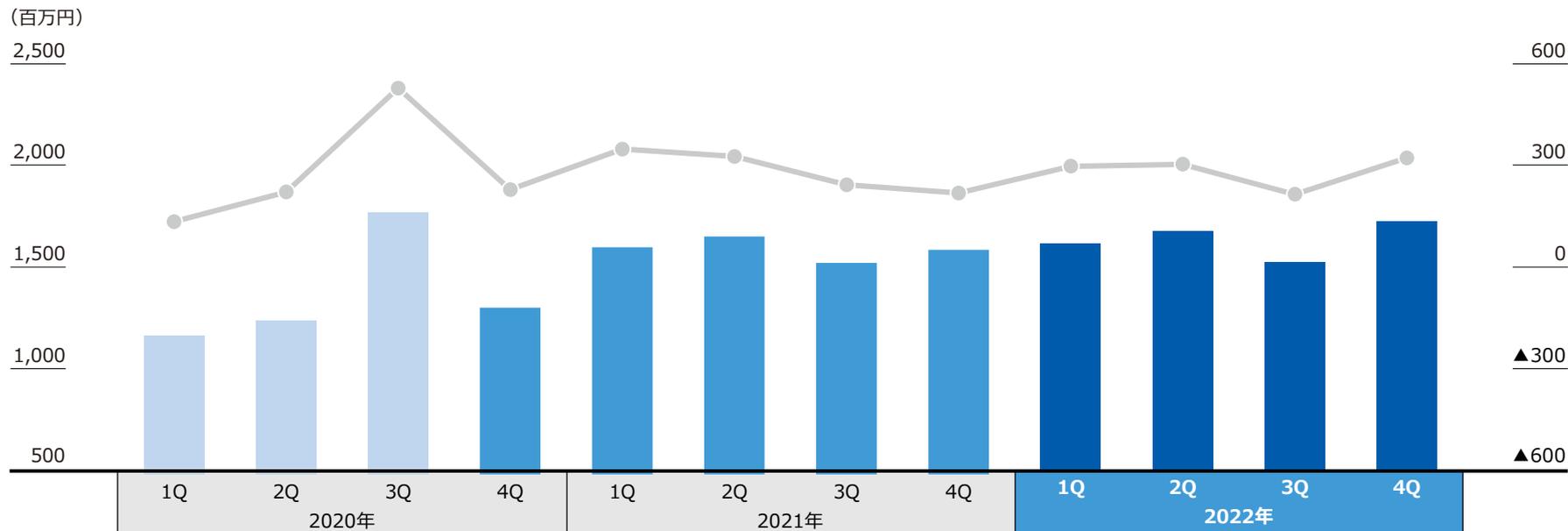
売上高

- デジタル売上高がYonY111%と大きく伸長した一方、紙販売の売上高はYonY91%と前期を下回り、セグメント全体のYonYは103%に留まった。
- 第4四半期の売上高はQonQ113%、YonY109%と好調。紙出版の返品が少なかったことが売上だけでなく利益にも寄与。
- 第4四半期のデジタル売上高は、QonQ99%、YonY113%と好調。12月に『小悪魔教師サイコ』が売上を伸ばし、デジタル売上高を牽引した。

営業利益

- デジタル売上高が伸長したことにより、デジタル粗利益もYonYで大きく増加した。
- 紙出版においては売上高の減少と、紙原価の高騰により、YonYで大きく利益が減少した。
- 第4四半期の営業利益は、売上高の好調を受けて、QonQ147%、YonY144%と伸長した。

Cセグ 売上高・営業利益

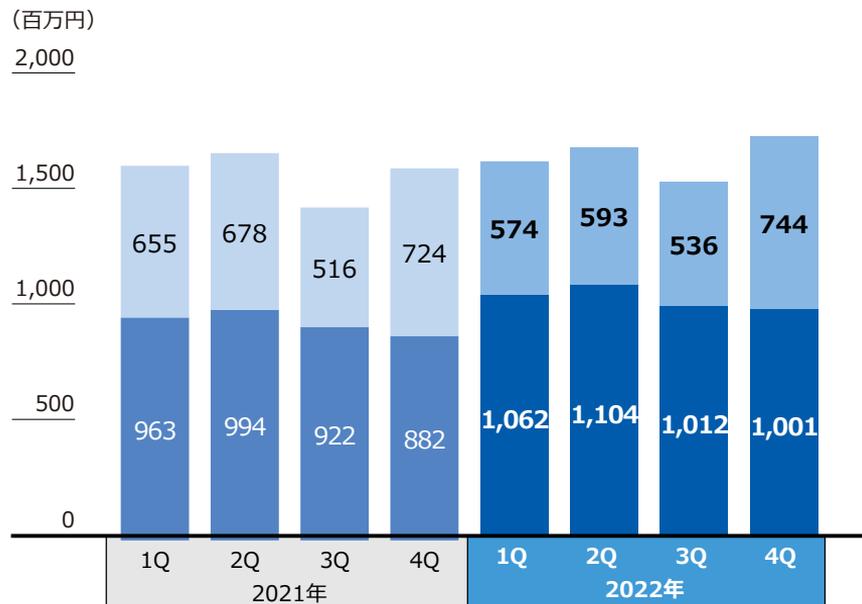


■ 売上高 ● 営業利益

注：売上高はセグメント間の内部売上高又は振替高を含む

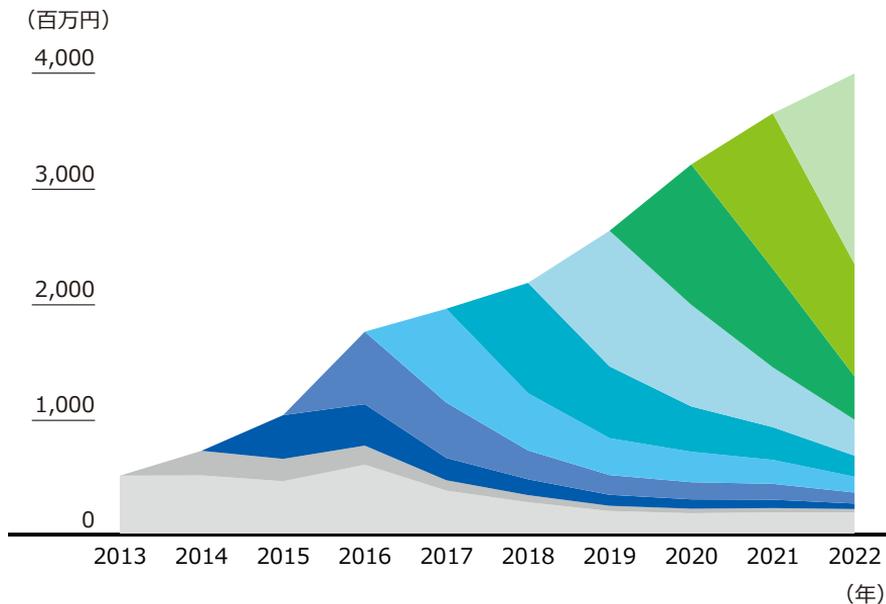
注：20年3Q以前（連結対象外）の数値は管理会計数値を利用

Cセグ 売上高



注：端数処理の都合、合計値は不一致

デジタル売上高と配信開始時期



注：管理会計数値のため、財務会計数値と不一致

1 ジャンルバリエーション・コンテンツ拡充 女性向け漫画を中心に、ジャンルと親和性の高いデジタルの分野で延伸



生まれぬ花嫁は
一途に皇太子を愛す

紡木すあ (著)
古池マヤ (原作)



没落令嬢、
貧乏騎士のメイドになります

千世トケイ (著)
江本マシメサ (原作)

漫画編集部門体制の強化

- 新レーベル「PRIMO」「BKコミックスf」よりヒット作創出
- 新卒（3名）・若手中途採用人材補強計5名増
- 編集管理職の育成



2 「メディアミックス作品」と「Pセグとのシナジー」の創出



2022年1月よりテレビドラマ放映！

- 「まんが王国」でCM放映&最新刊の先行配信
- 書き下ろしオリジナルコンテンツの配信など、Pセグとのシナジーを創出



「ノベルパ」×「ぶんか社」でコミカライズを前提とした小説投稿コンテストを開催

3 JELLY 2022年12月号好調・Organic Beauty BOOK 完売、コロナ禍でも広告収入堅持 女性向けファッション誌&ムック、4WD車雑誌 & ムックが堅調に推移



JELLY
2022年12月号

完売



コスメキッチン監修
Organic Beauty BOOK
Vol.10



LET'S GO 4WD



最新 4WD SUV パーツガイド
2023年版

1

2022年12月期 通期決算

2

2023年12月期 通期業績予想

3

中期経営計画（2022-2024年）抜粋

4

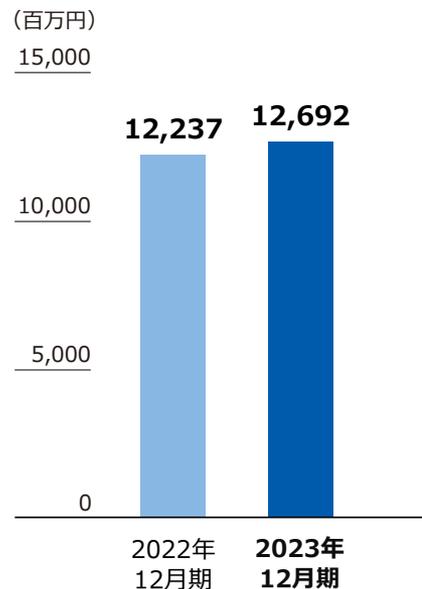
会社概要

電子書籍サービスの安定成長と、デジタルコンテンツの成長続伸を実現。
コンテンツ投資および海外事業投資を積極的に行う。

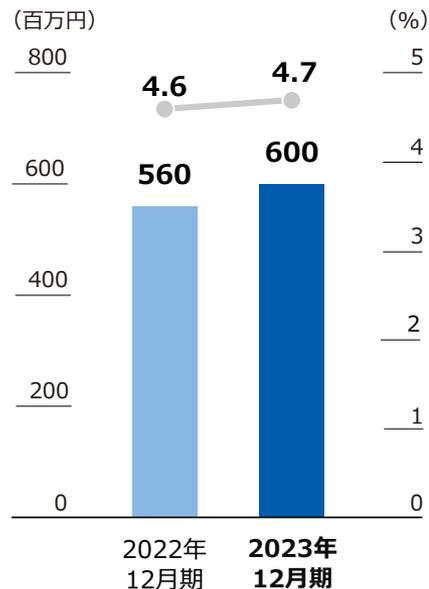
（単位：百万円）

P / L	前期実績	2023年12月期 予想		参考		
	通期	通期	増減額	増減率	上期	下期
売上高	18,713	19,622	+908	4.9%	9,499	10,122
営業利益	1,755	1,822	+66	3.8%	850	971
のれん等償却前営業利益	2,534	2,570	+35	1.4%	1,224	1,345
経常利益	1,608	1,766	+158	9.8%	822	943
当期純利益	664	900	+235	35.4%	406	493
1株当たり純利益（円）	111.34	150.80	+39.45	—	68.11	82.69

売上高



営業利益・営業利益率



売上高

電子書籍に注力

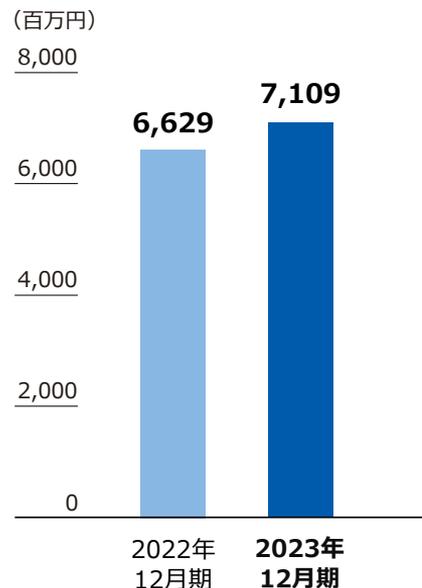
- 『まんが王国』の売上高成長率を約105%で計画。
- 海外のテストマーケティングを上期に開始。
- ノベルバ原作をはじめとしたオリジナルコンテンツの強化。

営業利益

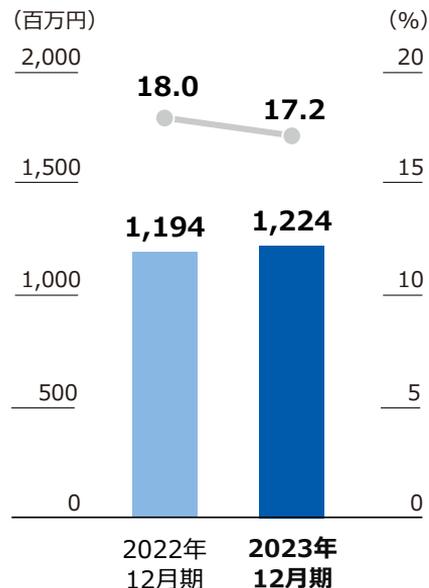
オリジナルコンテンツと海外ビジネスへの積極投資

- オリジナルコンテンツの強化により、粗利率の改善を目指す。
- 効率的な広告宣伝を継続しつつ、積極的に広告を投下。
- エンジニアの増強、ローカライズの推進による費用増加。

売上高



営業利益・営業利益率



売上高

ジャンルバリエーション・コンテンツの拡大を引き続き推進

- デジタルの売上高成長率を約110%で計画。
- 紙出版については、一定の価格戦略を織り込み、返品率を抑えることで前期並みの売上高を見込む。

営業利益

紙出版の原価高騰をデジタルの成長が吸収し増益を計画

- デジタル売上高の伸長による粗利益の増加。
- 紙出版においては、通期に渡り原価高騰の影響を受けるため、前期比で減益を織り込む。
- コンテンツ拡充のため編集人員を増強。

1

2022年12月期 通期決算

2

2023年12月期 通期業績予想

3

中期経営計画（2022-2024年）抜粋

4

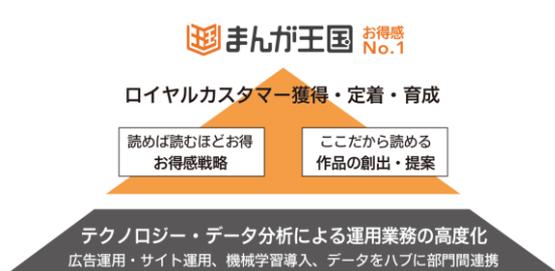
会社概要

(単位：百万円)

	1年目	2年目	最終年度	
	2022年12月期	2023年12月期	2024年12月期	
	実績	予想	必達ライン	ストレッチ目標
売上高	18,713	19,622	20,000	24,000
プラットフォーム セグメント	12,237	12,692	—	—
コンテンツ セグメント	6,629	7,109	—	—
営業利益	1,755	1,822	2,150	2,400
プラットフォーム セグメント	560	600	—	—
コンテンツ セグメント	1,194	1,224	—	—
当期純利益	664	900	1,200	1,350

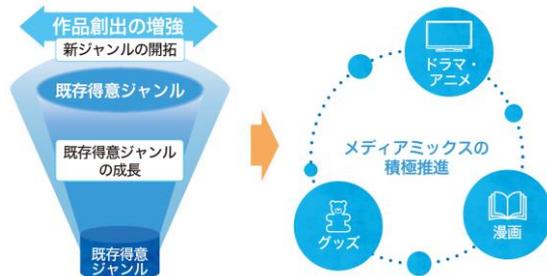
注：セグメント売上高はセグメント間の内部売上高又は振替高を含む

1 グループ成長を支える基盤としての『まんが王国』安定成長



- ロイヤルカスタマー戦略を継続
- 『まんが王国』の成長率を105%で計画
- 新規許諾・先行配信タイトルの獲得を推進

2 コンテンツ創出力の強化とメディアミックスの実現



- 編集人員の強化
- ジャンルバリエーションの拡大強化を継続
- 『ノベルバ』原作の積極的コミカライズ、コンテストの実施

3 海外展開



- 2023年上期にテストローンチ
- グループ内資産を活用した他社との差別化を実施
- 2024年に本格ローンチを計画

世界でヒットするコンテンツの共創



日本テレビとのシナジー効果

① クリエイターの発掘・育成・支援

各種共同企画の推進

② 原作の相互利用

当社グループ作品の映像化と日本テレビIPの漫画化

③ メディアミックス展開へのチャレンジ

共創作品に留まらず当社グループ新旧作品などからイベントほかメディアミックス展開による集客・ライセンス収益

④ プラットフォームの強化

テレビから「まんが王国」への誘導

2022年の振り返り

- 日本テレビとのクリエイター発掘企画「THE TOKIWA」を2022年10月～12月にかけて「シューイチ」内で放送。
- 劇団ひとり氏×オーディション合格者の漫画作品を12月より配信開始。
- 日本テレビ運営のYouTubeチャンネル「ぼくたちのあそびば」のコミカライズ企画、全6巻配信。

2023年は「共創」を具現化

- ビーグリーグループ作品の日本テレビグループによるドラマ化（1作品決定）
- 日本テレビグループのクリエイターの企画をコミカライズ（2作品着手済み）
etc.

成長投資、株主還元、財務体質の健全化のバランスを取っていくことがキャピタルアロケーションの基本方針です。

中期経営計画期間（2022/12～2024/12）
に生み出すキャッシュの累計

営業CF | 60億円以上

手元資金 | 42億円（2022/12末）

+ 借入余力

成長投資 | 30～60億円

- 人財投資
- IT・デジタル投資
- M&A、コンテンツ投資

株主還元 | 配当2～3億円

配当性向 | 10%以上

負債の縮減 | 30～40億円

D/Eレシオ | 0.5～0.8

注：2021/12末の手元資金は35億円

注意事項

- 本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」(forward-looking statements) を含みます。
- これらは、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。
- それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。
- 本資料内には、事業環境の説明を行う上で参考になると考える情報を掲載しておりますが、会計監査人の監査を経ていない財務情報も含まれており、その内容の正確性を完全に保証するものではありません。
- 今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は、本発表に含まれる「見通し情報」の更新・修正を行う義務を負うものではありません。
- 本資料に記載された会社名、サービス名及び製品名等は該当する各社の商標又は登録商標です。

1

2022年12月期 通期決算

2

2023年12月期 通期業績予想

3

中期経営計画（2022-2024年）抜粋

4

会社概要

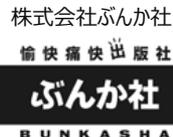


会社名： 株式会社ビーグリー (Beagle Inc.)
所在地： 東京都港区北青山二丁目13番5号 青山サンクレストビル4階
創立： 2004年10月25日
資本金： 18億9,330万円 (2022年12月末時点)
市場： 東証第一部 (証券コード：3981)
従業員： 82名 (単体/2022年12月末)
経営陣： 代表取締役 吉田 仁平
取締役 櫻井 祐一
取締役 秋田 堅司
社外取締役 佐藤 俊介
社外取締役 久保 真一郎
取締役 (監査等委員) 田中 新
社外取締役 (監査等委員) 吉田 広明
社外取締役 (監査等委員) 大橋 敏彦

社名の由来について

「進化論」のチャールズ・ダーウィンが
世界航海に使用した船の名『Beagle』号に由来

ぶんか社グループ



- 創業：1948年
- 従業員数：149名 (2022年12月末)
- 事業概要：女性向け漫画を紙媒体・電子媒体で出版する総合出版事業

株式会社海王社

海王社

ぶんか社から
編集業務を受託

新アポロ出版株式会社

新アポロ出版

車雑誌等の編集
業務受託及び
広告事業の受託

株式会社文友舎

文友舎

女性向けファッション
雑誌及び車関連雑誌
の出版 (編集) 事業

経営理念

1. 理念

固定観念にとらわれる事なく、新しい発見と進歩を求め続ける

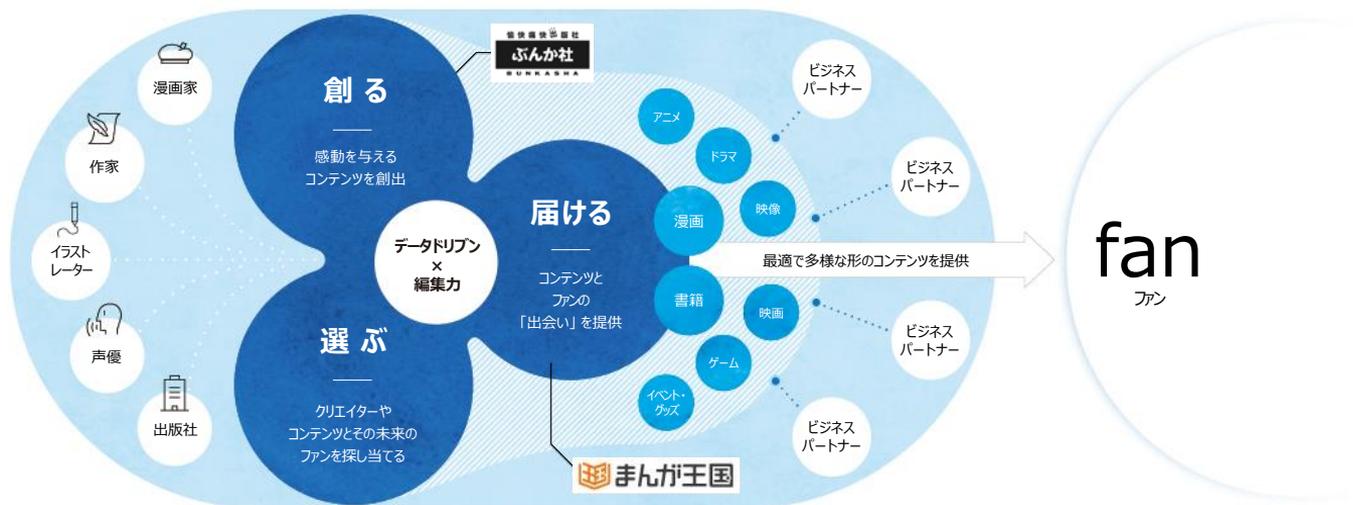
2. Mission

クリエイターとファンを繋ぎ、新たな価値を創造する

3. Vision

グローバルで通用するコンテンツプロデュースカンパニーへ

「創る」「選ぶ」「届ける」をワンストップで提供するコンテンツプロデュース



創る

データ分析と編集力を強みに、
ヒット再現性のあるオリジナルコンテンツを制作

選ぶ

読者のニーズをとらえ、
クリエイターとコンテンツの発掘

届ける

ファンに「驚き」「喜び」の出会いを
数多く提供できる土壌

「創る」「選ぶ」「届ける」をワンストップで提供するコンテンツプロデュース



プラットフォームセグメント

ビーグリーの売上高
9割以上を占める



お得感 No.1 のコミック配信サービス

novelba

FUNDIY STORE



コンテンツセグメント

出版社 4 社による
総合出版社グループ

愉快痛快出版社

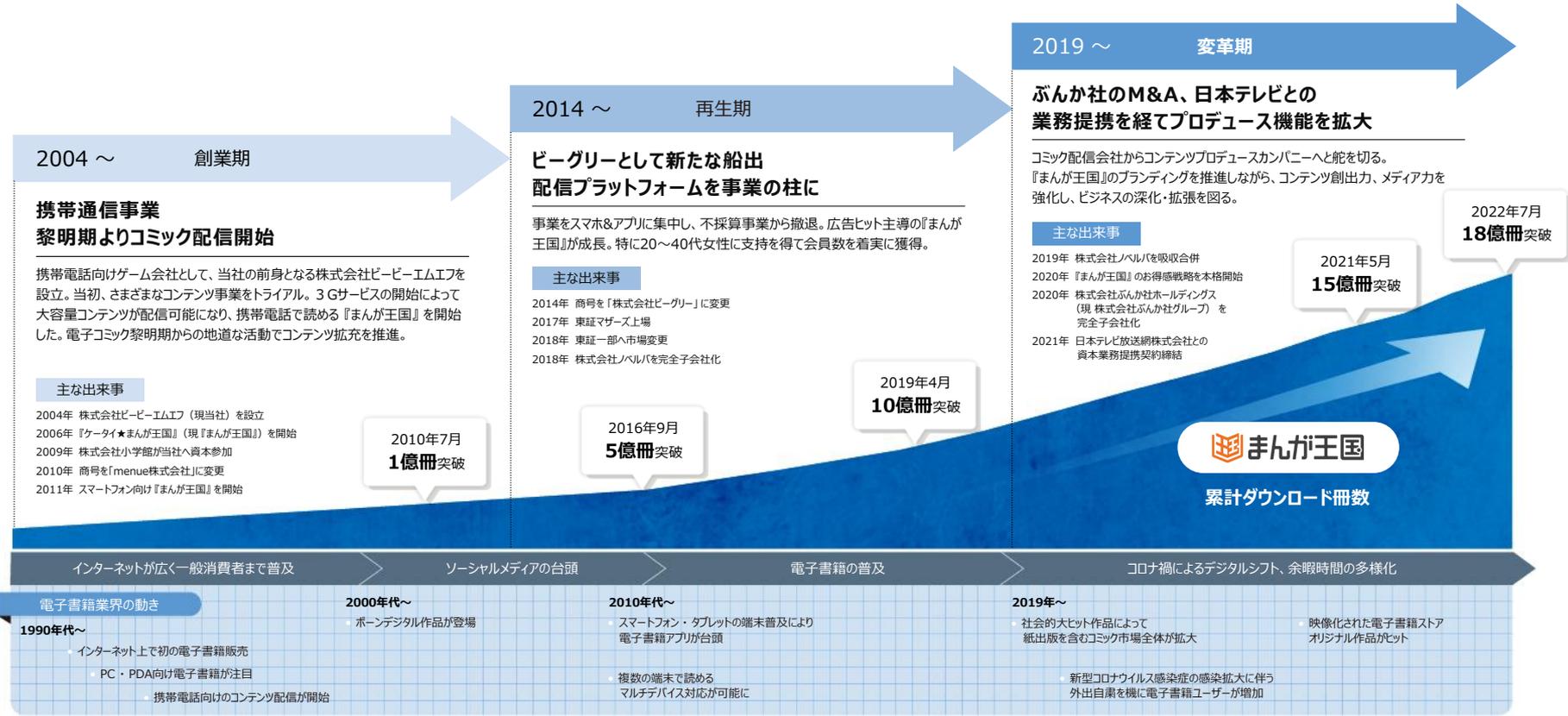
ぶんか社

BUNKASHA

海王社

新アポロ出版

BUNYUSA
文友舎



※PDA (Personal Digital Assistance) : 携帯情報端末

ぶんか社の
あゆみとコンテンツ



ぶんか社は、流行をとらえ、読者ニーズに応えることでコンテンツ創出力を磨き、事業を拡大してきました。漫画ではレディースコミックなどの女性向けジャンルを中心に多くの作品を有し、現在も取り扱いジャンルの開拓を進めています。情報誌では女性ファッション雑誌・自動車雑誌などを出版しています。

ぶんか社の
あゆみ

東京都千代田区丸の内
日本文華社として創業

株式会社ぶんか社に社名変更

株式会社日本産業推進機構と
資本業務提携を締結

自社コミックサイト『マンガよも
んが』の運営を開始

ビーグリーが株式会社ぶんか社
ホールディングス（現 ぶんか社グル
ープ）を子会社化

1948

1992

2017

2019

2020

ターニング
ポイント 1

1990年代：女性向けコミック市場の拡大

1990年代に入り、1970年代に少女漫画を楽しんだ読者層の成長やコンビニ市場の拡大を通じて、従来の少年少女漫画とは異なる新ジャンル（レディースコミック、4コマ漫画など）が台頭

ぶんか社の主要漫画雑誌の変遷



▶ 女性向けコミックを業界に先駆けて出版、当該ジャンルでプレゼンス確立

ターニング
ポイント 2

2000年代以降：ぶんか社の電子化への取り組み

フィーチャーフォン時代

- 電子書店、電子取次会社などと協業し、早期より電子書籍業界に進出
- DTP印刷ノウハウ獲得、電子コミック用ファイル作成に転用
- 電子書籍に対応した作家との契約を業界に先駆けて整備

スマートフォン・タブレット端末時代

- コミックの単話配信の拡充、ポーンデジタル作品、サイマル配信などの電子化への施策
- 自社コミックサイト『マンガよもんが』オープン

▶ 時代を先取りした動きで電子書籍事業を拡大

お得感
No.1
を獲得



お客様に寄り添い独創的な提案で、
未永く使っていただけるサービスを提供

会員数 **700 万人超**

単行本換算で累計 **18 億冊**ダウンロード

出版社・作家等のライセンサーとの

契約合計 **2,000 件以上**

常時 **3,000 タイトル**以上の無料タイトル

注 1 : 「電子コミックサービスに関するアンケート」

調査期間 : 2022年4月8日～ 2022年4月14日

調査対象 : まんが王国または主要電子コミックサービスのうちいずれかをメイン且つ

有料で利用している20歳～ 69歳の男女

サンプル数 : 1,236サンプル 調査方法 : インターネットリサーチ 調査委託先 : 株式会社マークス

注 2 : 各データについては2022年12月時点

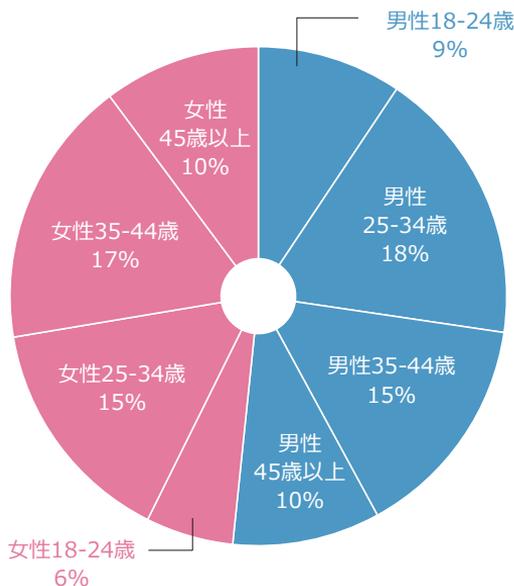
注 3 : 累計ダウンロード数は無料タイトル及びコマ形式のタイトルを冊数換算したものを含みます。

まんが王国へ
アクセス

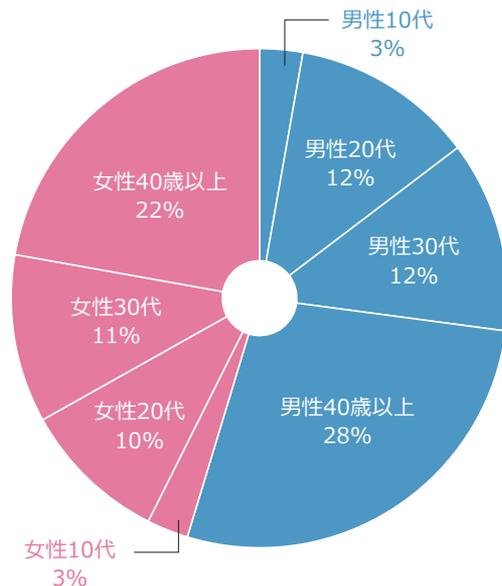


まんが王国公式キャラクター
ホコリアム

まんが王国 会員 ※2022年12月末時点



一般的な有料電子書籍の利用者



出所：「電子書籍ビジネス調査報告書 2022」インプレス総合研究所

20-40代の女性から支持。
 有名タイトルだけではなく、
 知る人ぞ知る良作や
 オリジナルコンテンツに**出逢い**、
ファンになる方が多い。
 当社のプロモーション・特集等から火が付き、
 メディア化される作品も多数。





「誰もがデジタルデバイスであらゆる小説を読む」 世界の実現をコンセプトに「作者」と「読者」をつなげる 小説投稿サービスを提供

投稿作品数 **20,000 件以上**
独自機能「**ノベルバ報酬プログラム**」を展開
手軽にオーディオブックが作れる
「**ボイスノベル機能**」の導入
出版社との協業による**小説コンテストの開催**

ノベルバへアクセス
<https://novelba.com/>



小説投稿アプリ「ノベルバ」管理人
述々部るる

培ってきたコンテンツの特徴

漫画

- 女性向け漫画ジャンルを得意とし、デジタルとの親和性が高い。
- 余暇時間に手軽に読める読み切りの作品が多く、デジタル作品と相性が良い。
- 連載ものの長編で、読者が思わず次の話も購入してしまうような引きの強いヒット作品も創出し、デジタル売上高に寄与。

レディースコミック



4コマ漫画/ライトノベル



ティーンズ・ラブ (TL) 系



ボーイズ・ラブ (BL) 系



情報誌

- エッジの効いたコンテンツを強みに特定の読者層や広告クライアント（ファッション雑誌・自動車雑誌）を有する。

ファッション雑誌



自動車雑誌



PICK UP

● 新ジャンルへの展開

ライトノベルのコミカライズを開始したほか、新たな女性向けデジタルコミック誌として『PRIMO プリモ』や『comic ヤミツキ』を創刊しました。

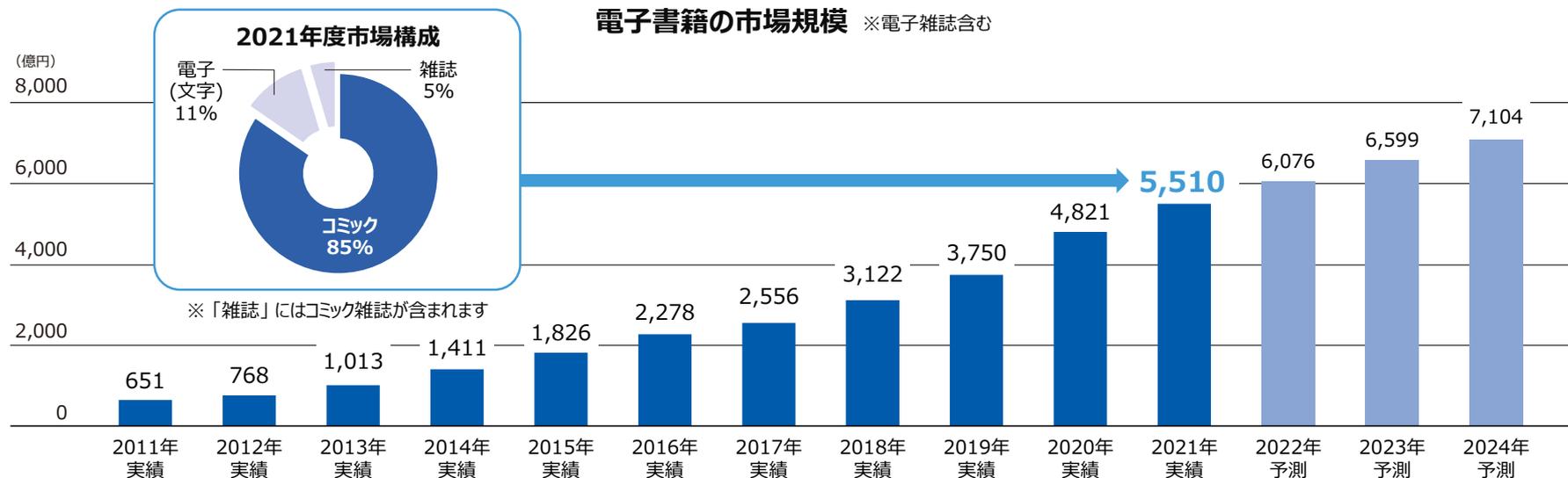
● ドラマ化を実現

人気作品『義母と娘のブルース』が新春スペシャル版として、さらに、スマートフォン向けコミックサイト『マンガよもんが』のオリジナル作品『部長と社畜の恋はもどかしい』が2022年1月よりテレビドラマ化されました。



コミックを中心とする電子書籍市場は、外出自粛による巣ごもり消費や、その後の反動を繰り返しながらも拡大を続けており、今後も電子書籍及び電子コミックの市場規模はゆるやかな拡大が続くことが予想されています。

電子書籍の市場規模 ※電子雑誌含む



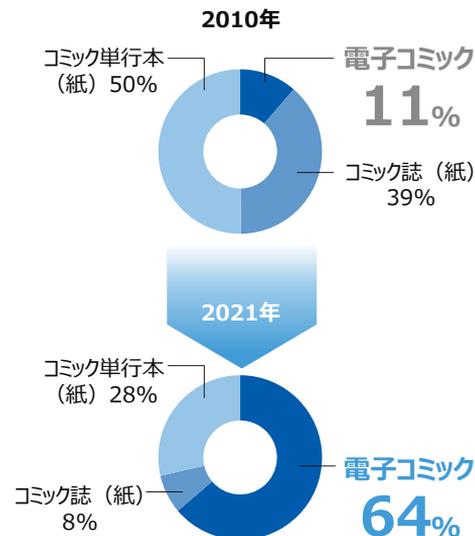
出典：「電子書籍ビジネス調査報告書 2022」インプレス総合研究所

紙媒体のコミックおよび電子コミックの売上が拡大し、コミック市場は拡大を続けており、コミック市場における電子コミックの割合についても増加傾向にあります。

コミック市場の推移 ※電子のコミック誌は含みません



コミック市場構成の変遷



出所：「電子書籍ビジネス調査報告書 2022」インプレス総合研究所／「出版年報」出版科学研究所

クリエイターとファンを繋ぎ、新たな価値を創造する



株式会社ビーグリー (Beagle Inc.) 証券コード : 3981

Email : ir@beagle.com